プラス日報 実践例アーカイブ

活用事例を随時ご紹介します！！

地域の先人 多様に深く学ぶ

盛岡・杜陵小

盛岡市の杜陵小（八木橋信也校長、児童176人）の６年生35人は、地域の先人、新渡戸稲造の生き方や考え方を知る学習にプラス日報を取り入れた。記事を読んで調べ学習やフィールドワークを行い、家族や地域の人に伝えたい内容をまとめた。

新渡戸稲造ゆかりの地でフィールドワークを行う杜陵小の児童

総合的な学習の時間の一環で取り組んだ。児童は本県にゆかりのある先人のエピソードを紹介しているプラス日報の「いわての先人」のページを活用。新渡戸を紹介する記事を読み、功績や人柄について理解を深めた。

フィールドワークは新渡戸生誕の地など、学校周辺にあるゆかりの場所を訪問。同行した新渡戸基金理事長の藤井茂さん、下ノ橋町内会の阿部佳男（よしお）さんに新渡戸の生い立ちなどを質問し、説明に耳を傾けた。

調べた内容は「身近な人に新渡戸の魅力や地域の良さを伝える」視点でまとめた。児童は伝えたい相手や場面をそれぞれ設定し、プレゼンテーションやポスター、クイズなど、最適な形式で成果を表現した。

家族に伝えるためプラス日報の「クミハン」でオリジナル新聞を作成した中村彩七（あやな）さんは「記事を読みたくなるような見出しを付けることができた」と手応えがあった様子。「家族が読み慣れているので新聞にまとめた。後から読み直すことができるのも新聞のいいところ」とほほ笑んだ。

成果発表の授業では、同じテーマでも伝える内容や方法の多様さに驚いた児童もいた。森莞太さんは「他の人の発表から新しいことを知ることができた。自分のクイズに追加できそうな情報も見つかった」と振り返った。

担任の野月一隼（かずと）教諭は「プラス日報は児童が一斉に同じ記事を読めるのがいい。今後は記事をスクラップし、その傾向から自分を見つめ、自分の行動や生き方を考える活動につなげたい」と思い描く。

クミハンで作った新聞を示し、学習の成果を発表する杜陵小の児童

思い思いの形で学びの成果をまとめる杜陵小の児童

プラス日報とは？

岩手日報社が提供する学校向け新聞活用プログラムです。児童生徒の読解力や情報リテラシーの向上を図るとともに、授業に活用できるコンテンツで先生方をサポートします。

利用できる機能は？

❶デジタル版紙面の閲覧❷過去約２０年分の記事検索❸新聞記事を題材にしたワークシート❹新聞製作ソフトなど。そのほか震災復興やふるさと学習、進路学習をサポートするコンテンツを提供しています。

どう使われている？

朝学習で新聞を読んだり、行事を振り返る個人新聞作りなど多様に活用されています。2025年度当初時点で、県内の公立小中学校の約40%の学校が利用しています。

ご依頼はこちら！

「＋日報」についてより詳しく知りたい方は、岩手日報社プラス日報事務局の専用フォームからお問い合わせください。